

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成19年3月1日(2007.3.1)

【公表番号】特表2004-518991(P2004-518991A)

【公表日】平成16年6月24日(2004.6.24)

【年通号数】公開・登録公報2004-024

【出願番号】特願2002-534871(P2002-534871)

【国際特許分類】

G 02 B 5/30 (2006.01)

C 08 L 67/02 (2006.01)

G 02 B 1/04 (2006.01)

【F I】

G 02 B 5/30

C 08 L 67/02

G 02 B 1/04

【手続補正書】

【提出日】平成19年1月15日(2007.1.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】連続相および分散相を含み、

前記連続相および分散相の少なくとも1相が、相互反応してコポリマーを生成することができる第1のホモポリマーおよび第2のホモポリマーのブレンドを含む偏光子。

【請求項2】前記第1のホモポリマーおよび第2のホモポリマーが反応して約70%未満のランダム度を有するコポリマーを生ずる、請求項1に記載の偏光子。

【請求項3】連続相および分散相を含み、

前記連続相および分散相の少なくとも1相が、PENホモポリマーおよびPETホモポリマーのブレンドから形成される第1のコポリマーを含み、前記コポリマーが約75%と50%との間のモル%のNDC組成を有し、前記コポリマーの固有粘度が同一の比の同一のモノマーを有するがホモポリマーから生成されるわけではない第2のコポリマーから得ることが可能な固有粘度より高い光学体。

【請求項4】前記コポリマーが約70%未満のランダム度を有する請求項3に記載の光学体。

【請求項5】連続相および分散相を含み、

前記連続相および分散相の少なくとも1相が、少なくとも第1のモノマーおよび第2のモノマーからなる第1のコポリマーを含み、前記第1のコポリマーにおける前記第1のモノマーの数平均序列長さが、前記第1のコポリマーと同一のモノマーおよびモノマーの比に基づく第2の統計的にランダムなコポリマーにおける前記第1のモノマーの数平均序列長さより長い光学体。

【請求項6】前記第1のコポリマーにおける前記第2のモノマーの数平均序列長さが、前記第2のコポリマーにおける前記第2のモノマーの数平均序列長さより長い請求項5に記載の光学体。

【請求項7】前記第1のコポリマーが前記連続相に対応する請求項5に記載の光学体。